

ビジネス フォーカス

【地域活性化】

【写真の町 北海道東川町】

全国で人口減少、少子高齢化が進み、特に地方では深刻な状況になりつつある。こうした中、北海道・東川町は30年にわたりさまざまなアイデアや取り組みを継続し、成果を挙げてきた。

大雪山の麓にある東川町は自然に恵まれていて、特にめぼしい観光資源もなく、人口8千人規模の小さな町である。しかしこの町は北海道でも数少ない人口増加の自治体で、1994年に7千人を切った人口は、2014年までの20年間で千人近く増加した。

東川町の成功は、80年ごろから地域活性化のムーブメントとなつた「一村一品運動」がきっかけだった。当時多くの自治体が物産品や景観を一品として取り上げる中で、東川町は「写真」を提案し、85年に「写真の町」を宣言した。そして世界でも例のない試みとして、写真写りの良い町づくりを目指した。

最初の年には「東川町国際写真フェスティバル」を開催した。

著名な写真家から新人まで、幅広い写真家が集う一大イベントとして開かれ、それ以降、写真に関わるイベントや集いを次々と開催してきた。

東川町が全国的に注目されるようになったのは、94年に全国の高校生を対象として始めた「写真甲子園」だ。参加は当初、約170校だったが、今では約500校に増えた。町民全體が協力し、キヤノンなど大手企業が特別協賛するなど、全国的な写真の一大イベントとなつている。

東川町の成功は、80年ごろから地域活性化のムーブメントができるかも審査対象となる。

本戦の3日間は、参加する高校生が東川町民の家でホームステイをして、住民と学生が交流を深めている。このときホームステイを体験した高校生は、卒業してからも東川町を訪れることが少なくないという。

この他にも「写真少年団」、2人の大切な瞬間の思いを形に残す「新・婚姻届」、まちづくりに協力する「株主制度」、町で生まれた赤ちゃんと椅子を贈る「君の椅子」、子どもの写真などを記念ラベルにできる地元

産米入り「米缶」など写真に関連する多くの企画を実施している。一つ一つが「写真の町宣言」という理念でつながつており、東川のファンになり、支援者になり、東川に住むといったストーリーが構築され、実践されて

体の人材だという点である。

地域活性化が成功しているとされる地域をみると、外部の企業や人物が何らかの形で関わっていることが多い。今の時代には単なる思い付きやブームに乗るだけのイベントでは長続きせず、自治体だけの企画・実行力では限界があるといわれている。しかし東川町はあくまで自

治体が中心となつて企画・実行しており、それを現在も継続している点が注目されている。日本などの地域でも東川町の成功が地方自治体にとつて、特に、これといった資源を有していない自治体にとつて、大きな見本となることは間違いないであろう。

(矢野経済研究所
プランディンググループ
理事研究員 池内 伸)